

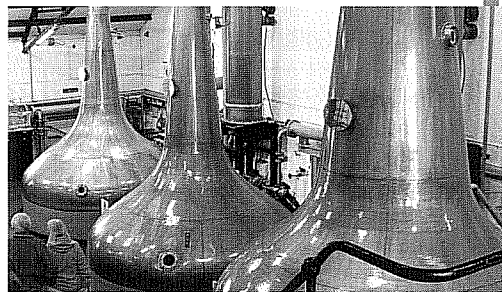
インフレリスクの 疑似体験

インフレリスクという言葉
葉を最近よく耳にする。

インフレリスクとは、ずばり「お金の価値が下がる」ことに伴うリスクであるが、先般、急激にこの「お金の価値が下がる」という事態を体験したのでご紹介しよう。舞台はスコットランド。そう、今回も先日のスコットランド視察旅行の続報である。

スコットランドの国に入つて2日目、早くも「物価の凄さ」という洗礼を受けることになった。グラスゴーで借りたレンタカーで、小さな町の小さなレストランにランチに入ったのだが、メニューの値段を見てびびくりした。

日本でいえば、いわば駅前の蕎麦屋のようなお店である。隣のテーブルで仲良く食事をしている年金暮らし（と思われる）ご夫婦と同じものを注文したのだが、その価格が何と7ポンド（約1800円）



▲シングルモルトの象徴・ポットスティル

であった。コーヒーが3ポンド、パンとスープが4ポンドで合計7ポンドである。同じものを日本で食べたなら、せいぜい900円程度だろう。

このときは、「まあ、そんなものか」と思ったのだが、その後の17日間のスコットランドの旅では、次々とポンドの強さ（＝円の弱さ）を見せつけられ、圧倒されることとなった。これはスコットランド（イギリスポンド）のみならず、ヨーロッパ（ユーロ）全般においても同じ状況だろ

う（最近の米ドル急落で円高になり、円はポンドに対して多少は上がったが、基本的に圧倒的なポンドの強さには変わりはない）。

ガ ソリンの価格も高かった。今回のスコットラ

ンドの旅は、シングルモルトの蒸留所巡りということで、レンタカーで田舎の小さな町を巡ったのだが、レギュラーガソリンの価格は1ポンド（270円）であった。日本のちょうど倍の価格である。

より日常生活に密着したものでいうと、スターバックス（スタバ）のコーヒーが3ポンド（800円）。こちらは日本の3倍である。ちなみに、マクドナルドのビッグマックも3ポンドであった。

巡った蒸留所では、見学した後のウイスキーが飲み放題であったので、ポンドのインフレ（？）ショックのせいとか、いつも飲んでばかりであった

が、この旅の間、不思議なことにまったく日本人には出会うことがなかった。これほどのポンド高という「パンチ」を受けてしまつては、スコットランドは日本人の観光場所にはならないのであろうか。

日本に帰国後、スタバにて、いわばデフレ感覚で毎日コーヒーを飲む日々が続いた。スコットランドでは、思わぬインフレリスクの疑似体験（？）ができたといえるが、それでも今の日本から見れば、いろいろな意味で「美しい国」であった。



えりぐち・きちお

1950年東京生まれ。大学卒業後インドを放浪し、ヒッピーとなる。帰国後、三菱新聞社を経てミサワホームに勤務。2000年にFPFとして独立。相続FPの提唱者でもある。相続FP研究会理事、相続支援ネット代表。